日本ハンドボール協会
創立50周年を迎える

――盛大に記念式典・祝賀会が開催される――

日本ハンドボール協会は、昭和13年2月に創立されて以来、輝かしい50周年目を迎えた。

この50周年目を祝って、50周年記念式典・祝賀会を、3月28日、東京ヒルトンホテル桂の間にて盛大に開催した。当日は、斎藤英四郎会長をはじめとした日本ハンドボール協会関係者はもちろん、他のスポーツ団体などからも多くの方々がお祝いに駆けつけ、日本ハンドボール界の輝かしい50年の歩みと今後の発展に向けて熱気あふれる会となった。

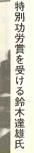
式典は、荒川清美副会長の開会の辞に始まり、斎藤英四郎会長のあいさつ、日本陸上競技連盟を代表しての佐々木秀幸氏の祝辞、参議院議員・太田淳夫氏の祝辞とつづき、その後協会に対する功労者への功労賞、感謝状の贈呈があり、乾杯の後、実に一五〇名近い参会者の懇談となった。

この日は、日本ハンドボール界の歩みをもれなく網羅した『日本ハンドボール史』が披露され、また、5月末から開催される50周年記念行事・ジャパンカップのプランが紹介された。

この50周年を区切りに、ここに日本ハンドボール協会の新しい歩みがスタートした。

創立50周年のあいさつを述べる斎藤英四郎会長

特別功労賞を受ける田村正衛氏

特別功労賞を受ける鈴木達雄氏

記念式典の開会の辞を述べる荒川清美副会長

堀之口貞男（鹿児島）
平仲　孝栄（沖　縄）
金原　　至（高体連）
田中　滋章（実業団）
富永　　劭（自衛隊）
高橋　健夫（教職員）
久保　義雄（学　進）
海保　和夫（中体連）

■報道関係感謝状

朝日新聞社
共同通信社
サンケイ新聞社
サンケイスポーツ新聞社
時事通信社
スポーツニッポン新聞社
デイリースポーツ東京本社
東京タイムズ社
日刊スポーツ新聞社
日本経済新聞社
報知新聞社
毎日新聞社
読売新聞社
中日新聞東京本社
テレビ朝日
東京放送
テレビ東京
日本テレビ放送網
日本放送協会
フジテレビジョン
㈱スポーツイベント
㈱ベースボールマガジン社
㈱大修館書店
㈱不昧堂出版

■業者関係感謝状

入間川ゴム㈱
㈱モルテン
明星ゴム工業㈱
タチカラ㈱
テイエヌネット㈱
鐘屋産業㈱
松本製網㈱
㈱アシックス
高須賀㈱
㈱寺西喜商店
㈲ミセキネット製作所
イノコ㈱
㈱都村製作所
栗林体器㈱
㈱関西金属運動具製作所
㈱三英商会
三和体育製販㈱
稲荷体育用品㈱
㈾上坂鉄工所
㈱小川長春館
㈱舟岡製作所
セノー㈱
㈱中村体育器具工場
㈱藤栄
赤羽根工業㈱
㈱デサント
㈲朝香製作所
㈱AIスポーツプロダクト
㈱ナイキジャパン
美津濃㈱
ソニー企業㈱
大塚製薬㈱

■日本リーグ感謝状

大崎電気工業㈱
㈱三陽商会
大同特殊鋼㈱
日新製鋼㈱
本田技研工業㈱鈴鹿製作所
涌永製薬㈱
大阪ガス㈱
㈱三景
トヨタ車体㈱
トヨタ自動車㈱
中村荷役運輸㈱
日鉄建材工業㈱
本田技研工業㈱熊本製作所
大阪イーグルス
ジャスコ㈱
立石電機㈱
㈱大和銀行
日本ビクター㈱
㈱日立製作所栃木工場
東京重機工業㈱
ブラザー工業㈱
㈱北国銀行
東北ムネカタ㈱
ソニー国分セミコンダクター㈱
㈱シャトレーゼ

日本ハンドボール協会50周年記念
表彰者

（敬称略・順不同）

■特別功労賞

鈴　木　達　雄
田　村　正　衛
小　杉　仁　造
児　玉　九　十
渡　辺　和　美
林　　　達　夫
徳　永　陸　繁
武　田　喜　三（故人）
外　山　准　二
阿　部　二　郎

■感　謝　状

嶋　田　新太郎
境　井　秀　三
島　田　清　史
勝　　　繁　夫
山　田　哲　夫
光　嶋　　　浩
吉　田　正次郎
平　岡　秀　雄
西　村　孝　雄
滝　口　三　郎
村　田　　　弘
竹　野　奉　昭
市　原　則　之
野　田　　　清
井　　　　　薫
鈴　木　義　男
池　田　鉄　哉
杉　山　　　茂
藤　本　　　強
岡　村　昭　二
新　井　節　男
水　上　　　一
鴨　門　義　夫

■表　彰　状

新橋　　満（北海道）
小川　清吉（青　森）
太田　利彦（岩　手）
森　　恭一（宮　城）
由利　　弘（秋　田）
保坂　　浩（山　形）
宗形　守敏（福　島）
山内　孝雄（茨　城）
高橋　隆夫（栃　木）
小林　　進（群　馬）
遠藤　健次（埼　玉）
猪股　俊二（千　葉）
村田　　稔（東　京）
斉藤　達也（神奈川）
植野　　保（山　梨）
渡辺五郎兵衛（新潟）
加藤　雅之（長　野）
高田　義一（富　山）
若山　　博（石　川）
伊藤　仁和（福　井）
久保田龍治（静　岡）
太田　耕治（愛　知）
安芸　嘉幸（三　重）
岡田　重博（岐　阜）
佃　幸太郎（滋　賀）
木下彌三郎（京　都）
前田　吉弘（大　阪）
狩野　幸介（兵　庫）
阪本　祐治（奈　良）
山田　　進（和歌山）
松原　紀機（鳥　取）
小路　昌弘（島　根）
永井恒三郎（岡　山）
川上　正幸（広　島）
藤田　信義（山　口）
楠原　敏明（香　川）
松原　久士（愛　媛）
久良谷昌男（高　知）
長野農夫男（福　岡）
甲斐　忠義（佐　賀）
田中丸善一郎（長崎）
後藤　常男（熊　本）
福田　　稔（大　分）
坂本　　平（宮　崎）

日本ハンドボール協会創立50周年

全日本大会優勝監督表彰者

〈日本リーグ〉

中浜大輔、市原則之、野田　清、津川　昭、喜井美雄、井　薫、池田鉄哉、鈴木義男、谷口俊郎

〈全日本実業団選手権〉

辻本正義、今野邦彦、北村尚英、竹野奉昭、西村　功、湧永儀助、宮原藤支男、中浜大輔、市原則之、野田　清、木野　実、大原真造、山本伸二、亀岡成昌、栗田昌吉、塩川安賢、宮原俊隆、井　薫、鈴木義男、近藤金博、池田鉄哉、谷口俊郎、伊藤宏幸。

〈全日本総合選手権〉

馬場太郎、池上金治、徳永陸繁、中井昭夫、荒川清美、小袋是郎、奥村広重、中沢重夫、今野邦彦、三原壮孔、勝　繁夫、北村尚英、安達精太、中根俊男、宮原藤支男、村中明郎、中浜大輔、市原則之、木野実、津川　昭、喜井美雄、横田なおみ、清水　正、松本重雄、望月　正、小林六七、林　藤吉、大森　清、山口　茂、山中栄二、亀岡成昌、栗田昌吉、井　薫、宮原俊隆、鈴木義男、池田鉄哉、近藤金博、白神邦雄、谷口俊郎、伊藤宏幸、高野　亮。

〈全日本学生選手権〉

稲生嘉生宏、高嶋　洌、中沢重夫、三原壮孔、勝　繁夫、荒川清美、安藤純光、三沢　澄、田中秀夫、北川勇喜、一宮昌平、菅野富夫、宍倉保雄、大倉武三、鈴木彰一、吉岡久士、中山圭二、和泉貞男、藤原　侑、高野　亮、河村レイ子。

〈全日本高校選手権〉

渡辺　繁、稲石三二、池田　清、片瀬喜代次、藤松　博、高橋英次、横　敏夫、高橋清和、由利　弘、川上整司、小川安人、古賀　昇、林　信義、横井保信、山形　久、星井　直、山田克彦、冨松秋実、日笠甚一、村山　寛、中出盛雄、山川仁止、荒木英之、砂長　誠、北川　浩、林　藤吉、望月　正、細井　操、豊島慶男、富山　正、荒木時弥、真木　崇、鈴木孝八郎、片岡賢司、高橋邦男、谷口俊春、木村方紀、藤原泰郎、高橋　誠、小林高根、斉藤幸三、泉　浤。

〈全国高校選抜〉

青木　操、川上整司、横井保雄、佐藤勝利、古賀　昇、渡辺靖弘、池田加一、谷口俊春、縣　敏郎、片岡賢司、宮崎　昭。

〈全日本教職員選手権〉

湯沢清澄、松下一朗、大原靖男、高山政悟、村田　弘、高橋健夫、井上裕人、奥浜　清、河先　修、佐々木義明、桑原芳子、北村尚英、沖永波都子、佳森憲治、中村典子、坂本喜美、審　愛玲、浅野克彦、細井政雄。

〈全日本自衛隊選手権〉

富永　劭、山本　進、白坂義弘、中井紘逸、瀬田哲彦、森岡浩一、後藤淳一郎、小林祐義、千川康夫、平山久男、小松重夫、塩見　博。

〈全国高専選手権〉

富樫　栄、井口邦男、今松伸是、高山　礎、武藤　至、渡辺　信、大原康昇、三木久夫。

〈全国クラブ選手権〉

長沢養一、佃幸太郎、松浦　召、明穂光也、平塚一彦、寺田静子、小川賢治、福井喜昭、石松真由美。

〈全国中学校大会〉

稲葉嘉雄、浜江国三郎、勝田登志雄、早川宜彦、土井喜光、小柳新一、青木　徹、藤井康正、又吉栄久、西田　啓、比嘉和直、本谷昌利、西村禮治、豊田輝夫、平井徳子、宮本民子、園田聡正、寺　隆司、小川邦彦、山口和男、加藤益弘。

〈全日本総合室内選手権〉

荒川清美、中沢重夫、奥村広重、北川勇喜、辻本正義、勝　繁夫、竹野奉昭、村田　弘、中浜大輔、高倉大祐、林　藤吉、尾花恵美子、北川　浩、亀岡成昌、栗田昌吉、宮原俊隆、鈴木義男、井　薫、山田　計。

第18回全日本実業団男子トーナメント大会

トヨタ自動車に二度目の栄冠

第18回全日本実業団男子トーナメント大会は、2月7日〜9日の3日間、広島の呉市体育館、日新製鋼呉体育館に全国32チームが参加して開催された。

決勝は、トヨタ自動車対トヨタ車体というトヨタ同士の対決となったが、トヨタ自動車が逃げ切って4年ぶり2度目の優勝を飾った。

1回戦

大阪ガス22 〔9—9 13—8〕 17金沢市役所

〔戦評〕序盤から互いに点を取り合い、1点を争う好ゲームとなり、同点のまま前半を終了した。後半開始早々大阪ガスは長田のロングでリードし、そのまま波に乗るかと思われたが、金沢市役所も橋本、酒井の速攻などで盛り返し、競り合いが続いた。後半、大阪のディフェンスが前によくつめ、金沢の攻めをよく止め、最後は大阪の速攻の連続で試合が決まった。（高俊文）

〔金沢〕	得
GK 竹中	0
GK 藤井	0
FP 池村	1
FP 金森	1
FP 中納	0
FP 橋本	5
FP 酒井	3
FP 中村	0
FP 西田	6
FP 八日市屋	0
FP 垣内	1
FP 北野	0
計	17

〔大阪〕	得
GK 福田	0
FP 奥野	1
FP 竹志	0
FP 藤井	0
FP 中村	2
FP 長田	7
FP 水谷	2
FP 田坂	6
FP 藤田	4
計	22

（審・楠戸、藤森）

徳山曹達30 〔14—10 16—11〕 21三井石油化学千葉

〔戦評〕前半立ち上がり、三井石化のオーバーステップなどのミスを徳山曹達が速攻につなげ、4対1とリードした。その後、お互いの持ち味を出した攻撃が見られ、点を取り合い、14対10で前半を終了した。後半も三井石化のシュートミスが目立ち出す一方、徳山曹達は速攻による加点でリードを広げ30対21で終了した。（長谷実）

〔千葉〕	得
GK 杉弘	1
FP 田中	3
FP 佐藤	1
FP 森重	4
FP 相田	2
FP 中村	6
FP 三村	1
FP 岡村	1
FP 貫船	2
計	21

〔徳山〕	得
GK 藤本	0
FP 山上	5
FP 上田	0
FP 中村	10
FP 井上	2
FP 中村	9
FP 重永	1
FP 福田	0
FP 手島	0
FP 原田	0
FP 藤村	3
計	30

（審・萬場、里）

日本電装31 〔14—6 17—9〕 15神戸製鋼

〔戦評〕前半、日本電装のコンビの合った固いディフェンスが光り10分以後に日本電装は菊地のカッからの速攻を始め速攻で加点し、14対6と日本電装のリードで終了した。

後半に入り、日本電装は速攻及び杉村のロングなどで加点し、また、神戸製鋼は藤谷のスタンディングで対抗したが、31対15で日本電装が勝利した。（田中彰彦）

〔神戸〕	得
GK 中尾	0
FP 江口	2
FP 笹野	0
FP 渡辺	2
FP 藤谷	3
FP 石橋	4
FP 河内	2
FP 由利	2
FP 佐伯	0
計	15

〔電装〕	得
GK 森	0
FP 杉村	6
FP 榊間	4
FP 川路	2
FP 藤崎	0
FP 久本	2
FP 安江	3
FP 上田	4
FP 菊池	4
FP 樋口	2
FP 橋本	4
計	31

（審・古冨、野村）

セントラル自動車36 〔17—8 19—4〕 12陸自東立川

〔戦評〕セントラル自動車は、相手のパスミス、シュートミスに乗じての速攻で着々と得点を重ねた。自衛隊東立川もサイド攻撃で反撃するが、前半は17対8で終了した。

後半もセントラル自動車が堅い守り、速攻、サイドシュート、ロングシュートなどで点差を広げ、一方的な試合となってしまった。（中岡芳樹）

〔東立川〕	得
GK 小石川	0
GK 前田	0
FP 蘇理	0
FP 木口	1
FP 杉崎	1
FP 穂坂	3
FP 引田	0
FP 高橋	6
FP 倉持	1
FP 及川	0
FP 青木	0
計	12

〔セント〕	得
GK 吉田	0
GK 佐藤	0
FP 茂垣	1
FP 谷中	2
FP 日吉	1
FP 尾形	6
FP 海老原	2
FP 守谷	7
FP 笠場	6
FP 宮浦	2
FP 千葉	5
FP 藤野	3
計	36

（審・増田、山根）

武田薬品光33 〔16—7 17—10〕 17日本原子力研究所

〔戦評〕前半、西野のロングシュートで先行した武田薬品は、相手日本原子力のパスミスなどに乗じて長棟、杉山、末長などの速攻で点を加えていった。日本原子力は前半6分までミドルシュートなどがことごとくディフェンスにカットされ、得点できず、武田薬品を調子づけた。後半も同じようにパスミスなど目立ち、お互いに速攻で得点を加えた。全員で攻撃していた武田薬品が勝利を握った。（万代和孝）

〔原研〕	得
GK 佐藤	0
GK 広瀬	0
FP 宮本	6
FP 大友	2
FP 川上	0
FP 藤本	0
FP 秋山	3
FP 相沢	0
FP 砂押	0
FP 坪井	3
FP 荻原	3
計	17

〔武田〕	得
GK 清水	0
FP 長棟	5
FP 西野	4
FP 杉山	4
FP 末長	14
FP 笹野	1
FP 酒井	2
FP 小川	3
FP 仁科	0
計	33

（審・楠戸、藤茂）

トヨタ車体35 〔16—5 19—4〕 9自衛隊勝田

〔戦評〕両チームとも長身選手はいないが、トヨタは長野、君島、河村を中心に得点を重ね、特に長野のパワーが光った。自衛隊勝田は、セットでの攻撃による得点力が弱く、相手チームの速攻を許すパターンが目立った。両チームともGKの守りが固く、特に勝田のGKは何度もノーマークシュートをカットし、相手の得点シュートをつぶす活躍を見せた。後半、トヨタはメンバーチェンジをくり返し、層の厚さと余裕さえ感じられた。（石村良雄）

〔勝田〕	得
GK 山口	0
FP 高岡	1
FP 額賀	3
FP 辻	1
FP 池田	1
FP 藤原	3
FP 冨原	0
計	9

〔車体〕	得
GK 宮田	0
GK 村林	0
FP 長野	10
FP 藤野	2
FP 君島	5
FP 磯貝	1
FP 河村	5
FP 松井	3
FP 吉続	3
FP 中島	0
FP 蓑田	4
FP 井上	1
計	35

（審・萬場、里）

北陸電力25 〔11—7 14—7〕 14日本鋼管福山

〔戦評〕両チームともワンポスト、ダブルポストを使っての攻撃型、前半開始10分までは5対5で接戦であったが、鋼管のスタミナがなくなったのかミスが多くなり、北陸ペース。中でも北陸・田中の個人技能が目立った。後半も北陸ペースで試合は行なわれ、25対11で試合終了。（深見知博）

	〔福山〕	得
GK	瀬良	0
FP	辺見	2
	村田	2
	岡崎	1
	小松	0
	篠田	4
	金井	3
	西郷	0
	林	0
	藤島	0
	福岡	2
		14

（審・古島 野村）

	〔北陸〕	得
GK	岩城	0
	熊本	0
FP	小原	0
	近葉	1
	稲木	2
	田中	9
	古田	3
	稲崎	3
	三田	6
	川上	0
	澤田	1
		25

日鉄建材 30（16－4 14－8）12 出光千葉

〔戦評〕攻守に勝る日鉄建材は、前半上山のロングシュートと杉本、若本の速攻で点を重ねる。これに対し出光は、日鉄建材の守りの高さと好守GK蓑輪の前に歯が立たず、前半は16対4。後半、日鉄建材はGKを変えるも前半同様得点を重ね試合を決めた。（佐久田宸次）

	〔出光〕	得
GK	池田	0
	池永	0
FP	千葉	1
	保原	1
	赤羽	0
	重永	0
	能星	0
	佐々木	0
	永石	5
	清村	0
	鶴岡	3
	大木	2
		12

（審・山根 増田）

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	杉本	5
	山口	4
	中山	4
	池辺	2
	上山	8
	外山	2
	清原	0
	若本	2
	玉嶋	3
		30

トヨタ自動車 42（20－4 22－4）8 三井石油化学山口

〔戦評〕前半10分までは両チームの探り合いから2対2と接していたが、その後三井石化の攻めの粗さとミスによりトヨタの速攻を許し、前半で勝負が決まった。（泉喜久男）

	〔山口〕	得
GK	田村	0
FP	村上	0
	中岡	0
	大村	0
	中倉	2
	石川	0
	作花	2
	青木	1
	春田	0
	村井	3
		8

（審・船越 森安）

	〔自動車〕	得
GK	中西	0
	西井	0
FP	香井	5
	川田	16
	相本	2
	堀江	3
	中西	4
	宮崎	1
	坂口	3
	平野	1
	白坂	2
	松尾	5
		42

竹芝精巧 26（8－8 12－12 4－1 2－3）24 新日鉄大分

〔戦評〕竹芝精巧が立ち上がり2点を先取したが、新日鉄大分はポストプレー、サイド、攻撃などで得点を重ね一時は3点差をつけた。その後、竹芝のGKの好守にあい得点が入らず徐々に追い上げられ同点で前半を終了した。後半に入り、両チームとも速攻を中心に得点を取り合い、好ゲームとなった。残り時間2分30秒で新日鉄が2点リードしたが、竹芝もよく追い上げ、延長にもつれこんだ。

延長に入り相手のミスから得点を重ねた竹芝が接戦をものにした。（池田尚美）

	〔大分〕	得
GK	財満	0
	伊東	0
FP	岡村	0
	牧	0
	房前	1
	大杉	7
	麻生	4
	安部	2
	南	5
	得丸	0
	河野	5
	吉田	0
		24

（審・中本 渡辺）

	〔竹芝〕	得
GK	小幡	0
FP	松本	5
	三幸	11
	桐木	6
	森口	0
	倉田	0
	具志堅	3
	百合野	1
		26

日本耐酸壜 18（11－9 7－8）17 日本発条

〔戦評〕前半、日本耐酸壜・野村、古田の長身コンビを軸によくボールがまわり、得点を重ね、またGK岩田の好守が光り、11対9で終了、後半7分過ぎに日本発条が同点に追いついたが、約5分間お互いに得点できないまま一進一退のゲームが続いたが、終了7分前に日本耐酸壜の古田が気力のシュートで勝利を握り、2回戦へ進んだ。（菊地一博）

	〔発条〕	得
GK	愛甲	0
	清水	0
FP	石塚	0
	井上	1
	関	5
	舛屋	0
	佐々木	1
	井上	3
	藤野	0
	山田	0
	呉座	1
	中村	6
		17

（審・長井 加藤）

	〔耐酸壜〕	得
GK	岩田	0
	足立	0
FP	吉安	0
	小林	3
	西脇	0
	青山	1
	五島	7
	梅田	0
	野村	3
	古田	1
	木村	3
		18

自衛隊呉 43（18－8 25－10）18 コスモ石油

〔戦評〕走りに勝る自衛隊呉は、守ってもGK須喜を中心によく守り、得意の速攻で徐々にリードを広げ、前半で勝負を決めて、後半もその攻撃は衰えず快勝した。（泉喜久男）

	〔コスモ〕	得
GK	谷口	0
	福本	0
FP	善岡	3
	松田	1
	北畑	5
	高橋	1
	川端	4
	八木	0
	松井	0
	山本	3
	昆野	1
	西本	0
		18

（審・中村 中森）

	〔呉〕	得
GK	須喜	0
	原田	0
FP	山先	5
	塩見	0
	和田	7
	西川	1
	児玉	10
	池田	9
	村岡	5
	利光	2
	山根	4
	瀬戸	0
		43

豊田自動織機 23（12－8 11－9）17 住友金属

〔戦評〕両チームともミスが多く、だらだらとした試合展開となったが、攻撃力に勝る豊田が4点差をつけ前半を終了した。後半になっても試合展開は変らず、大味な試合となった。前半のリードを生かした豊田が勝利を握った。（池田尚美）

	〔住友〕	得
GK	相坂	0
FP	魚住	2
	山崎	4
	河野	1
	堀	0
	岡	3
	西岡	3
	寺西	4
	羽場	0
	田中	0
		17

（審・船越 森安）

	〔自織〕	得
GK	中村	0
FP	蟹江	4
	奥畑	9
	古田	1
	諫山	0
	兵藤	0
	笹嶺	0
	新田	2
	前川	3
	山内	4
	加古	0
		23

東京重機 23（12－11 11－6）17 豊田合成

〔戦評〕立ち上がりから両チーム

	〔合成〕	得
GK	則武	0
	梅村	0
FP	花井	2
	渡辺	1
	畠中	1
	宇佐美	0
	須原	0
	森	0
	真島	0
	牧田	5
	小林	4
	上條	4
		17

（審・中本 渡辺）

	〔重機〕	得
GK	長谷川	0
FP	古屋敷	5
	北村	2
	塩野	0
	河野	0
	福地	0
	吉田	0
	鷹野	8
	海老原	3
	佐藤	5
		23

ともよく走っていたが、ミスが多く、東京重機の1点リードで前半終了。後半も一進一退のゲームであったが、残り5分頃から豊田合成に疲れが見え、速攻を確実に決めた東京重機が23対17で逃げ切った。（菊池一博）

新日鉄名古屋 14〔5―8、9―5〕13 コスモ石油松山

〔戦評〕コスモ石油松山がベテランらしく巧味のある攻撃とGK塩田の再三の好守で、前半8対5で折り返す。後半開始5分頃、新日鉄名古屋同点として1点を争う好ゲームであったが、疲れの見えたコスモ石油松山が1点差に泣いた。（菊地一博）

得	〔名古屋〕		〔松山〕	得
0	岩上	GK	塩田	0
0	浜田	GK		
3	平野	FP	小笠原	5
0	土屋	FP	木村	2
0	清水	FP	伊藤	1
2	蟹江	FP	佐々木	2
7	大島	FP	北谷	1
0	天草	FP	神野	2
0	渡辺	FP		
0	明永	FP		
0	阿久津	FP		
2	伊藤	FP		
15				13

（審・長井、加藤）

本田技研爽風会 40〔17―5、23―5〕10 鐘淵化学

〔戦評〕前半立ち上がりから本田技研爽風会は、決め手に欠く鐘淵化学を終始リードし、ほぼ前半で試合を決める大量リード、23対5で終了。後半も総合力に勝る本田が確実に得点を重ね、40対10のスコアで2回戦へ駒を進めた。（菊池一博）

得	〔爽風会〕		〔鐘淵〕	得
0	三宅	GK	野中	0
		GK	吉岡	0
2	小池	FP	下野	0
2	香西	FP	高田	1
4	山野	FP	吉岡	1
4	真砂	FP	増田	2
5	東	FP	松本	2
6	船谷	FP	渡辺	4
9	山下	FP	岡嶋	0
2	松下	FP	納庄	0
6	金沢	FP	池原	0
		FP	小池	0
40				10

（審・中村、中森）

2回戦

大阪ガス 28〔14―10、14―11〕21 徳山曹達

〔戦評〕前半10分間、大阪ガスは水谷、中村、長田で確実に得点した。一方、徳山曹達は、この間シュートコースが甘く、安易なシュートが目立ち、思うように得点できずに4点、その後、お互いにサイドシュートで得点し前半は14対11で大阪ガス。

後半、10分間に徳山曹達が同点に追いつき、勢いに乗るかと思われたが、その後大阪ガスも踏んばり、速攻などで突き放した。（万代和孝）

得	〔大阪〕		〔徳山〕	得
0	福田	GK	藤本	0
0	森	GK		
2	奥野	FP	山上	3
0	竹志	FP	上田	0
0	藤井	FP	中村	5
7	中村	FP	藤村	1
8	長田	FP	井上	4
4	水谷	FP	中村	7
2	田坂	FP	重永	1
5	藤田	FP	竹田津	0
		FP	手島	0
		FP	原田	0
28				21

（審・船越、森安）

セントラル自動車 25〔13―7、12―8〕15 日本電装

〔戦評〕両チームとも若いチームらしく前後半を通じてよく走り、点を取り合う好ゲームであった。セントラル自動車は、前半は千葉、後半は海老原の活躍などで着々と得点を重ねた。日本電装も何度か同点に追いつくチャンスはあったが、ここ1本のシュートが決まらず苦しい展開となった。最後になって電装のミスからセントラルの速攻で点差が開いたが、全体的にはセットプレーでの得点力に勝るセントラルが勝利を握った。（高俊文）

得	〔セント〕		〔電装〕	得
0	吉田	GK	森	0
0	佐藤	GK		
0	茂垣	FP	杉村	3
1	谷中	FP	榊間	0
0	尾形	FP	川路	0
6	海老原	FP	久本	5
4	守谷	FP	安江	0
0	筌場	FP	上田	0
3	宮浦	FP	菊池	2
11	千葉	FP	岡崎	0
0	藤野	FP	前田	0
0	瀬戸	FP	橋本	5
25				15

（審・中村、中森）

トヨタ車体 29〔11―9、18―5〕14 武田薬品光

〔戦評〕前半、武田薬品のパスミスから豊田は速攻を重ねたが、つめのシュートが甘く、GKに止められることが多かった。ラスト5分から波にのりシュートが続けて決まり、差が開き始めた。トヨタ車体は君島のロングシュート、松井、長野、藤長の個人技が光った。後半、武田薬品は攻めが甘くなり、相手に速攻による得点を許し、大差となるかに思われたが、GKのファインプレーに助けられる場面が随所に見られ、時折スカイプレイを見せるなど踏んばりを見せた。（石村良雄）

得	〔車体〕		〔武田〕	得
0	宮田	GK	清水	0
0	村林	GK		
6	長野	FP	長棟	1
8	藤長	FP	西野	6
5	君島	FP	杉山	1
1	河村	FP	末長	3
5	松井	FP	笹野	0
0	平野	FP	酒井	1
0	朝生	FP	小川	2
0	吉続	FP	仁科	0
0	中島	FP		
4	蓑田	FP		
29				14

（審・船越、森安）

日鉄建材 35〔15―7、20―3〕10 北陸電力

〔戦評〕攻守に勝る日鉄建材は、速い足を十二分に生かし、速攻、セット、ポスト、サイド攻撃などで着々と得点を重ねた。これに対し北陸電力は、固い守りの日鉄建材の前で思うように攻撃できず、サイド攻撃をするが、ラインクロスを犯し得点することが少なく、35対10と一方的な試合であった。（佐久田宸次）

得	〔日鉄〕		〔北陸〕	得
0	蓑輪	GK	岩越	0
0	川上	GK	熊本	0
6	杉本	FP	小原	0
5	山口	FP	近榮	1
10	中山	FP	稲木	0
3	池辺	FP	田中	4
2	上山	FP	吉田	2
3	外山	FP	稲崎	3
2	清原	FP	三田	0
1	若本	FP	川上	0
3	玉嶋	FP	澤田	0
35				10

（審・長井、加藤）

トヨタ自動車 27 （14－11 / 13－2） **13 竹芝精巧**

〔戦評〕お互いにスローな立ち上がりであったが、層の厚いトヨタが徐々に得点を重ね13点。一方竹芝はPTの2点のみで前半終了。後半に入ってもトヨタの速攻、遅攻と連続得点に対して、竹芝は大砲不在がひびいて単発的な得点しかできず、27対13でトヨタが3回戦に駒を進めた。（菊池一博）

得	〔自動車〕		〔竹芝〕	得
0	中西	GK	小幡	0
0	西井			
5	香井	FP	松本	3
8	川田		三幸	5
4	相本		桐木	4
3	堀江		森口	0
3	中西		倉田	0
0	宮崎		具志堅	1
3	坂口		百合野	0
0	平野			
1	白坂			
0	松尾			
27				13

（審・萬場 里）

自衛隊呉 26 （13－7 / 13－6） **13 日本耐酸壜**

〔戦評〕自衛隊呉は池田を中心によくまとまり、相手のミスから速攻などで着実に得点を重ねた。日本耐酸壜は、自衛隊呉の早いつぶしに合い、攻撃のリズムをつかめないまま前半を終了した。後半開始、日本耐酸壜は木村、古田、野村と続けてミドルを決めたが、あとが続かず、前半同様相手ミスから速攻を決めた自衛隊呉が快勝した。（池田尚美）

得	〔呉〕		〔耐酸壜〕	得
0	須喜	GK	岩田	0
0	原田		尾立	0
1	山先	FP	吉安	0
1	塩見		小林	2
5	和田		青山	1
0	西川		五鳥	3
7	児玉		梅田	0
8	池田		森	0
2	村岡		野村	4
1	利光		古田	1
1	山根		木村	1
0	瀬戸			
26				13

（審・古冨 野村）

豊田自動織機 23 （11－6 / 12－5） **11 東京重機**

〔戦評〕前半4分まで足を使ったディフェンスで互いに得点できなかったが、重機の反則から豊田がペナルティーを決め先行した。重機もすぐ鷹野のミドルで同点としたが、10分過ぎから重機に集中力がなくなり、豊田に得点を重ねられた。後半、10分過ぎから重機・吉田のシュートなどで追い上げにかかったが、豊田がサイド攻撃などで逃げ切った。（池田尚美）

得	〔自織〕		〔重機〕	得
0	中村	GK	長谷川	0
4	蟹江	FP	古屋敷	3
6	奥畑		北村	2
0	古田		塩野	1
5	諫山		河野	0
0	兵藤		福地	0
1	新田		吉田	3
4	前川		鷹野	1
0	笹嶺		海老原	1
3	山内		佐藤	0
0	加古			
23				11

（審・萬場 里）

本田技研爽風会 27 （13－6 / 14－6） **12 新日鉄名古屋**

〔戦評〕本田は、前半から前によくつめる積極的なディフェンスで相手の攻撃をよく止め、船谷らの速攻に結びつけ着々と点差を広げた。それに対し、新日鉄は蟹江の巧みなパスまわしから平野のサイドシュートなどで反撃したが、後半途中から攻めが単調となり、また、大事なところでのミスが目立ち、一方的な試合展開となってしまった。（高俊文）

得	〔爽風会〕		〔名古屋〕	得
0	三宅	GK	岩上	0
			浜田	0
3	小池	FP	平野	2
2	香西		土屋	3
3	山野		清水	2
4	真砂		蟹江	2
4	東		大島	1
3	船谷		天草	0
2	山下		渡辺	0
2	松下		明永	0
4	金沢		各務	2
			阿久根	0
27				12

（審・楠戸 藤茂）

3回戦

セントラル自動車 30 （13－12 / 17－12） **24 大阪ガス**

〔戦評〕前半は、セントラル自動車がセットプレーによる千葉のミドルシュートや尾形のサイドシュートなどで終始リードしていた。後半は、お互いに速攻やミドルシュートで五分の試合をしたが、前半のリードをそのまま守ったセントラル自動車が勝利をつかんだ。セントラル自動車の方が幾分動きが勝った。（万代和孝）

得	〔セント〕		〔大阪〕	得
0	吉田	GK	福田	1
0	佐藤		森	0
0	茂垣	FP	奥野	1
0	日吉		竹志	1
6	尾形		藤井	0
4	海老原		中村	5
4	守谷		長田	8
0	筌場		水谷	3
5	宮浦		田坂	3
11	千葉		藤田	2
0	藤野			
0	瀬戸			
30				24

（審・中村 中森）

トヨタ車体 31 （18－8 / 13－12） **20 日鉄建材**

〔戦評〕前半、日鉄建材は上山、山口からのポストへのパスがよく通り、また、GKの巧守からの速攻などでリードしたが、一方トヨタ車体も、15分すぎから長野、君島の個人技を中心にシュートがよく決まって逆転、接戦となった。しかし、後半に入るとトヨタ車体のDFがよくなり、長野を中心とした攻撃もリズムにのり、15分すぎには24対17となり、その後もリードを広げ一方的となった。後半、スピードの差が出た試合であった。（中野修二）

得	〔車体〕		〔日鉄〕	得
0	宮田	GK	蓑田	0
0	村林		川上	0
11	長野	FP	杉本	3
3	藤長		山口	4
5	君島		中山	1
0	磯貝		池辺	4
3	河村		上山	4
7	松井		外山	1
0	吉続		清原	1
2	中島		若本	2
0	蓑田		玉嶋	0
0	井上			
31				20

（審・山根 増田）

トヨタ自動車 33 （18－10 / 15－11） **21 自衛隊呉**

〔戦評〕前半開始後、トヨタはペナルティースローや相手のパスミスからの速攻を得点につなげ5対1とリード。一方的な試合展開かとも思われたが、海自呉も6分すぎから、利光、児玉のロングなどによって得点を重ね13分には同点

とした。その後トヨタも積極的に攻めるが、GK須喜の好守などにより点差を広げることができず15対11で前半を終了。後半に入ってからは、トヨタが相本のポストプレー、川田の速攻などでコンスタントに得点。海自県も池田の速攻、児玉のロングなどでたびたび相手ゴールを攻めるが、トヨタの厚いディフェンスに阻まれてなかなか得点に結びつかず33対21で終了した。（丸山隆明）

〔県〕		得
GK	須喜	0
	原田	0
FP	山先	0
	塩見	0
	和田	3
	西川	0
	児玉	4
	池田	9
	村岡	1
	利光	3
	山根	1
	瀬戸	0
		21

（審・古冨・野村）

〔自動車〕		得
GK	中西	0
	西井	0
FP	香井	6
	川田	9
	相本	9
	堀江	2
	中西	2
	宮崎	0
	坂口	4
	平野	0
	白坂	0
	徳原	1
		33

本田技研爽風会 31 〔16―10 15―11〕 21 豊田自動織機

〔戦評〕開始5分まで豊田が3点リードしたが、その後豊田に退場者が4人続き、その間に確実に得点した本田が6点差をつけ前半を終った。前半だけで両チーム合わせて6人の退場者が出るほど両チームのディフェンスの荒さが目立った。後半に入り、本田は豊田のシュートミスなどから速攻を決めた。豊田も蟹江のサイドシュートなどで追い上げを図ったが本田の勢いを止めることはできなかった。（池田尚美）

〔自織〕		得
GK	中村	0
FP	蟹江	6
	奥畑	4
	古田	0
	諫山	2
	兵藤	1
	新田	1
	前川	2
	笹嶺	0
	山内	5
	加古	0
		21

（審・中本・渡辺）

〔爽風会〕		得
GK	三宅	1
FP	小池	2
	香西	1
	山野	5
	真砂	6
	東	5
	船谷	1
	山下	6
	松下	1
	金沢	3
		31

準決勝

トヨタ車体 26 〔14―4 12―16〕 20 セントラル自動車

〔戦評〕前半、トヨタ車体の好守によりセントラル自動車が攻撃できず、速攻、ロングと加点していった結果、14対4で終了。後半になると、急にトヨタ車体の攻撃が単調となり、セントラル自動車が速攻で追い上げたがそれも及ばず、残り4分でトヨタ車体がゲームを決めた。（長谷実）

〔セント〕		得
GK	吉田	0
	佐藤	0
FP	茂垣	0
	谷中	5
	尾形	1
	海老原	5
	守谷	2
	笠場	1
	宮浦	1
	千葉	5
	藤野	0
	瀬戸	0
		20

（審・山根・増田）

〔車体〕		得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	長野	8
	藤長	3
	君島	7
	磯貝	0
	河村	3
	松井	3
	吉続	0
	中島	2
	蓑田	0
	井上	0
		26

トヨタ自動車 33 〔13―10 20―9〕 19 本田技研爽風会

〔戦評〕前半は、両チームとも立ち上がりから積極的なディフェンスとGKの好守とで一進一退のゲーム展開となった。トヨタ自動車は前半25分から3連続得点でリードした。

後半、トヨタ自動車は香井、川田を中心に着実に得点し、徐々に点差を広げていった。本田爽風会もよく善戦したが、後半ミスが多く、相手に得点を許してしまった。（久保博）

〔爽風会〕		得
GK	三宅	0
FP	小池	1
	香西	0
	山野	2
	真砂	2
	東	5
	船谷	1
	山下	6
	松下	0
	金沢	2
		19

（審・中本・渡辺）

〔自動車〕		得
GK	中西	0
	西井	0
FP	香井	10
	川田	9
	相本	1
	堀江	2
	中西	7
	宮崎	0
	坂口	3
	平野	1
	白坂	0
	田村	0
		33

3位決定戦

セントラル自動車 28 〔16―11 12―10〕 21 本田技研爽風会

〔戦評〕立ち上がりからセントラル自動車が先行し、本田爽風会が追いかけるという展開となったが、本田は10分から20分までの10分間相手GKの好守やシュートミスで無得点に終り、セントラルがリードを広げ16対11で前半を終了した。後半も前半と同じようなゲーム展開となった。結局本田は前半の点差を縮めることができず、セントラルが余裕をもって逃げ切った。（高俊文）

〔爽風会〕		得
GK	三宅	0
FP	小池	3
	香西	0
	山野	6
	真砂	2
	東	0
	船谷	3
	山下	6
	松下	0
	金沢	1
		21

（審・山根・増田）

〔セント〕		得
GK	吉田	0
	佐藤	0
FP	茂垣	3
	谷中	6
	尾形	1
	海老原	2
	守谷	5
	笠場	2
	宮浦	2
	千葉	7
	藤野	0
	中村	0
		28

決勝

トヨタ自動車 21 〔11―5 10―10〕 15 トヨタ車体

〔戦評〕前半、両チームともシュート数は互角の展開しているが、トヨタ車体はGKの正面へのシュートが多く、それに対しトヨタ自動車は坂口、川田の中央からのロングシュートがよく決まった。

後半に入り、一進一退の攻防をくり返し両者共好守がつづいたが、ラスト15分から得点が動き始めた。後半、トヨタ車体はペナルティースロー、河村のロングシュートにより得点を重ねたが、前半の得点が最後までひびいた。（石村良雄）

〔車体〕		得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	長野	6
	藤長	1
	君島	4
	磯貝	0
	河村	2
	松井	1
	吉続	0
	中島	0
	蓑田	1
	井上	0
		15

（審・中本・渡辺）

〔自動車〕		得
GK	中西	0
	西井	0
FP	香井	2
	川田	7
	相本	3
	堀江	2
	中西	3
	宮崎	0
	坂口	4
	平野	0
	白坂	0
	松尾	0
		21

男子B世界選手権大会

日本は14位に終わる！

2月中旬からイタリアで開催された男子B世界選手権大会に参加した日本男子ナショナルチームは、故障者が出るなど万全な態勢で戦えず、オリンピック出場権を目指すヨーロッパ勢の気迫の前に圧倒されて、結局16チーム中14位という成績に終わった。

◆戦績◆

▼第1戦（2月17日）
ノルウェー24（9－11、15－11）22日本
〔得点者〕王村8、西山5、立木3、高村3、田口2、奥田1。

▼第2戦（2月18日）
ソ連31（14－7、17－7）14日本
〔得点者〕酒巻5、宮下4、西山3、立木1、奥田1。

▼第3戦（2月20日）
フランス24（10－9、14－13）22日本
〔得点者〕酒巻7、立木5、西山4、宮下4、奥田1、首藤1。

▼第4戦（2月22日）
日本23（8－6、15－10）16ブラジル
〔得点者〕西山6、酒巻5、高村4、首藤3、奥田2、宮下2、立木1。

▼第5戦
チュニジア25（8－15、17－7）22日本
〔得点者〕西山9、宮下3、立木2、首藤2、高村2、藤井1、酒巻1、田口1、市川1。

▼第6戦（2月26日）
フィンランド33（15－12、18－15）27日本
〔得点者〕玉村10、西山4、立木4、宮下3、奥田2、高村2、酒巻1、田口1。

〈順位〉
①ソ連 ②チェコ ③ポーランド ④西独 ⑤ルーマニア ⑥スイス ⑦デンマーク ⑧フランス ⑨ノルウェー ⑩ブルガリア ⑪アメリカ ⑫イタリア ⑬フィンランド ⑭日本 ⑮チェニジア ⑯ブラジル

団長・金原 至

今回イタリアで開催された、男子B世界選手権大会（男子第6回オリンピック予選大会）に、団長として出場できる機会を与えてもらったことを深く感謝いたします。

世界のハンドボールを目のあたりにできると思うと、選手以上に若い血潮の煮えたぎるような感激を覚えました。実際にイタリアで観た各試合は、想像以上に進歩しており、その貴重な体験の一端を述べながら、今後の日本チームの課題をとらえてみたいと思う。

まず、今回の大会に臨む日本チームの目標は何であったか。それは参加国を四つ（A～D）に分けた中で、Bグループに入っている日本が、ノルウェーとフランス戦では勝利を収めて予選リーグを通過し、上位リーグに進出を決めることであった。しかしながら、残念にもノルウェーとフランスの両チームには、24対22という同じスコアで惜敗を喫してしまった。この2点差は、厳しい数字として謙虚に受けとめなければならない。敗因を分析してみるならば、それは、勝つか負けるかの勝負にかける闘志の差によるものと言っても過言ではない。技術面の差というより、島国の日本を離れて世界の舞台で個々の持っている力、チームの力を出し切るか否かの意気込みの差であると思った。

もちろん、選手の中には世界選手権大会の経験者は幾人もいるが、自分のペースでゲームをこなすための力（この力には〝精神＝こころ〟をも含めて）の不足を痛感した。

他の国のチームには懐けがある。国旗に向かい、国歌を力強く歌い、コートに整列する選手の姿は、まさに〝いざ出陣〟といった勢いである。そして、常に国旗を背にしてぶつかり合っているといった国と国とのスポーツの戦いであった。

〝スポーツに国境はない〟などと言った言葉は全く剝ぎ取られ、国の浮沈を賭けた実戦の感をもつほどの気迫であった。そこでは、スポーツマンに不可欠の〝心のたくましさ〟というものは教科書的言葉となり、画餅となってしまう。まさに、国と国との決戦であり、そこには血戦をも辞さないほどの熱気と興奮の高まりがある。このようなことからみれば日本チームはまだまだ純粋であり、紳士的であると言えよう。

力の強さ、技術面では、ソビエトを除いては、各国同列であると思った。この観点からすると、日本チームの今後の課題は、自ずと明確になってくるのである。

日本チームは、立派な監督とコーチを擁し、技術面は言うに及ばず、精神面においても、技術以上の指導を受けている。監督、コーチに対する選手の信頼感も高い。

その繋がりの中で、選手はたゆまぬ真摯な努力を重ね、〝底知れない力〟を秘蔵している。それだけに、この力が不発に終ったり、不完全燃焼であってはいけない。チームの力の充実向上に、個々の力を高めることは今更いうまでもない。個の力が、緊張した場面で出しきれるか否かは、ひとえに精神の鍛練にかかっている。この鍛練こそ、チームによってなされそうになった時こそ、チームワークは強靱な連繋として成立するのである。個のプレーを尊重することは、傷をなめ合うことではない。甘さの通用しない、失敗を許さない厳しいチームワークこそ、個の尊重であり、志気の昂揚につながると思う。

この厳しさの自覚をもって、来る11月のアジア予選に臨むなら、個の力は爆発し、火花を散らして戦うことができ、ソウルへのパスポートもつかみ得ると確信する。

ネットを隔てたバレーボール、テニス戦においてさえも、凄まじいぶつかり合いを感じる。ましてや体と体がぶつかり合うハンドボールのゲームにおいて、スマートなプレーは遠からず化石となっていくであろう。もっと人間の本性に立ちかえって、野性的いや野獣的とも言ったような、激しさを持つことが課題となると思う。

最後に、ナショナルチームは、名実共に日本のチームとして育っ

ていかなければならないと思った。そのためには、47都道府県から選手1人ずつを出そうという意気込みで、人材発掘、育成に努めなければならない。全国津々浦々から若い力を見つけ出し、育てていこうという将来的展望の上に成り立つなら、国を背負ったチームとしてはばたけるのでなかろうか。

そして、更に日本ハンドボール協会によって、今より以上にチームの情報提供がなされるなら、ハンドボールの観客人口も増加し、熱狂的なファンも生まれてくるものと思う。

コーチ・佐藤要二

参加国16チーム、上位2チームがソウル・オリンピックの出場資格を得る大会であり、予選リーグより緊迫したゲームが相ついだ。決戦に勝ち残った2チームは、ソ連とチェコスロバキアで、走、攻、守3拍子揃ったソ連が、予選リーグより圧倒的な強さで23対16で優勝を飾った。

残念ながら14位と最悪の成績で終了した日本チーム、多くの課題と多くの収穫を得てイタリアを後にした。日本チームの最終目標であるアジア予選に照準を合わせ、勝利に対し、執念をもって取り組んでいきたいと思う。

①精神面の強化

野田監督がよく言われる言葉の中で、選手に心の強化をしてほしいとよく言われます。大会が大きい程燃えて戦う選手、技術、体力面で差があれば、気持だけでも負けないよう、特に自分自身に勝つ事がナショナルの条件では……。

②防禦

相手チームの攻撃方法により、どのポジションを主に攻撃(展開)してくるのか。ポストなのか、サイドなのか、ロングなのか早い時間でわからなくては、立ち上がりのリズム、自分たちのリズムを作る事はできない。全日本チームの主な防禦方法は、フリースローラインを境にした6―0、3―2―1と2種類のDFシフトがある。ロス五輪時に、アルジェリアがマンツーマンに近いプレスDFを引いてかなりのDF実績を作ったが、ヨーロッパのチームでもかなりアルジェリアに近いDFシフトを引いてくる。相手チームの攻撃リズムを崩す事が主である以上、思い切ったDFシフトを取り入れる必要がある。

③攻撃確率

どの試合でも対戦間の攻撃回数は同じであり、シュート数に差があればミスである。全日本チームも5悪ミス(パス、キャッチ、チャージ、シュート、ラインクロス)、ストーリングの撲滅を目指しトレーニングを行っているが、どのゲームでも10以上のミスで相手にボールを渡すケースがある。どのチームもシュート確率は60%位あり相手チームに6点をプレゼントして戦う事になる。シュートまでの攻撃確率を高める事、ミスを少なくする事が接戦をものにするのでは……。

最後に、アジア予選まで8ヵ月と迫った今、これからの遠征、合宿、そして日々のトレーニングを一日たりとも無駄にせず、常にナショナルのプライドをもってスタッフ、選手協力し合って、強い全日本チームに作り上げます。

遠征に際し、多くの方々にご支援いただき有難うございました。

井藤英忠

第14位という成績に終った今大会のすべてのゲームに通じて言える事は、どの試合にもエアーポケットというか、空白の全く自分たちのプレーができなくなるという時間帯があるという事である。その時間帯は、一つのミスがきっかけに始まり、その間いくつものミスが重なり、自分たちのプレーに戻るまでには10分~20分程もかかり、最悪の場合など30分間全部といった状態もあった。これがどのような状況から起こるかを解決しなければいけない。

ゲーム中一つのミスに、いやな顔をする。注意をする人もミスをして沈黙する。その状態が続き、誰もリーダーシップをとれなくなる状態がこの空間であり、勝ってるゲームでもプレーに不安があり、肝心な所で力が出せない。勝負が決まってから、ひらきなおり、思い切ったプレーをしたのでは遅すぎる。以上のような事は何なのか? 早急に解決し、突破しなければいけない。

また、レフェリングに対しても戸惑う事が多かった。チャージング、オーバーステップ、ストーリング、ペナルティーなどといったミスが続出した。(日本では反則にならないような笛)。そのミスからの逆速攻が数多く頭に残っている。日本国内の笛と世界の笛がこれだけ違っては問題ではないか?

始めの所で書いた空白の時間に対し、集中力のアップ、一人一人がリーダーシップの気持ちを持つ、基本プレー、5悪ミスをなくす、といった根本的なものを整理するとともに、全日本のチームという気構えを持たなければいけない。オリンピック出場のために、いろいろなものを犠牲にしなければいけないし、11月には良い結果が出せるよう、今まで以上に頑張らなければいけないと思う。

楢原隆雄

ユーゴスラビアで合宿を行っている時は、日本での課題でもあった自分の殻に閉じこもることなく、

全員トレーニングを行っていたので、各個人も、チームとしても調子良く、また、チームとしてのまとまりも出て来ていた。

しかし、勝たなくてはいけなかったノルウェーに負け、ソ連、フランスにも負けた勢いもあって、良くなっていたチームのまとまりも元の木阿彌になってしまった。

試合内容については、毎試合同じような課題が多くあったがゲーム開始10分間の悪さ、点が取れない時間が長かったり、守りについては、ここで一本止めて攻撃への「踏ん張り」もなく攻撃しているうちにミスが出て、連続失点するパターンが多くあった。チュニジア戦など代表的な例で、前半7点差つけてリードしていたのが、後半15分に1点差に追いつかれ、最終的に負けたゲームなどは、ひとりが何らかのミスをする、そうすると知らぬ顔してそのままプレーする。そのうち2、3回とミスをしてズルズルと崩れてしまい、立て直しが利かなくなるケースが多くある。また、リーダーがいないことも、攻守にチームが一丸とならない原因でもあると思うが、その分各個人が自分がリーダーでという気持でプレーしていない。

課題については、力の差は歴然としていたソ連に対し、前半23分まで7対7と互角の戦いをする技術・集中力があるのだから、精神的な面を改めるのがまず第一であると考える。プレー面では、チームの目標をもう一度理解し、自分は何をしなくてはならないかを考えて練習に臨むことであると考える。

私としては、ソ連のディフェンスが一番印象に残っているし、あのディフェンスができるようにトレーニングしたい。

首藤信一

今大会での反省で強く感じる事が三つあります。

一つは、相手のプレスDFに対して消極的であったという事です。基本的である前を攻めてシュートを狙う。前を抜く事をしないで、パスを捜してしまい、これによってイージーミスが多くなり、自分たちのペースを崩す事が数多くあったと思います。これを直すには、相手DFに対して恐れずに自分たちのプレーに自信を持ち、強気で思い切りの良い攻撃をする事が大切だし、そのボールを持っている人間に対して、いかに自分が動く事によって、相手を助けてやる事ができるかを考え、プレーをしなければいけないと思いますし、お互いに指示する声が多くなければだめだと思います。

二つ目は、ペースが悪くなった時の立て直しがきかないという事です。自分たちのペースでゲームを進めていても、ミスがおきると、その一本によって崩れ出し、プレーが弱くなりミスが続き、立て直しができなくなってしまいます。これを防ぐには、誰かがリーダーになって声を出し、立て直すよりも選手全員がリーダーとなって、自分がやらなければという気持ちを持つ事と自分の調子が悪い時に、いかにチームに役に立てる動きをできるか考え、プレーしなければいけないと思います。

三つ目は、ゲームを通じての集中力不足です。集中力をつけるためには、常に全員が相手に勝つ事を意識し、その気持ちを持ち続ける事が大切だと思いますし、日頃の練習からリバウンド処理など簡単なプレーを大事にする事によって直せると思います。

この次の合宿から、今までの三つの事を課題にして、何のために、プレーしているのかを明確にして、一つ一つのプレーに責任を持って頑張ってゆきたいと思います。

西山　清

今回の約20日間の遠征は、本年11月に行われる予定のソウル・オリンピックのアジア予選に向けて大変意味深い遠征ということで、勝敗もさることながら、成果のある遠征にしなくてはいけませんでした。実際、結果の方は満足いくものではありませんでした。しかし今、全日本チームが一番優先して考えなくてはいけない事は、11月に行われるアジア予選に勝つ事なのです。そのためにも、今遠征の成果と反省を、個人として、チームとして見直して行くことが必要だと思います。今回は、今回という考えでは、11月の予選に向けて、全く意味のない遠征になってしまいます。

ところで、今回のユーゴ、イタリア遠征については、最終的な結果が悪かったため、反省点や課題ばかりが目立ちますが、忘れてはいけない事が、少ない時間帯だったかもしれませんでしたが、良かった点の見直しも各自していかないといけないと思います。この良い点、成功したプレーが、各自の自信につながり、そしてそれがチーム力アップにつながるのだと私は思います。また、悪かった点についても、それはどこに原因があって発生したのかを考えて行かないと同じミスを繰り返す結果になると思います。

これは私の偏見かもしれませんが、今の全日本チームは、対戦相手のことを考え過ぎて、自分のプレーや役割に、表現はよくありませんが、専念・没頭できないのだと思います。また、ミスに対しては、極端に神経質になり、ミスをしてはいけないという気持ちが先行して行くため、どうしてもプレーが消極的になってしまうような気がします。ミスというのは、結

果論的な要素が強く、それを私たちは、プレーをする前にその事を考えてしまうのではないかと思います。つまり、思い切ったパス、シュートはやれなくなってしまうのです。ミスとファインプレーは、紙一重の位置づけにあると私は思っています。もちろん、すべてがそうとは言えませんが。この遠征の最大の反省点は、そこにあるのではと私は思います。

今後は、私自身ミスを恐れず、私のプレーの身上である〝思い切り〟のよいプレーをすることを心がけて行きたいと思います。また、同じミスをするについても、レベルの高いミスをして行き、ミスをすることによって自分のプレーにマイナスの影響を与えるのではなくて、それが自分にとってプラスになるような考え、つまり加点法的な考えで頑張って行きたいと思います。

立木浩二

予選リーグ3戦全敗で準決勝リーグに進めず、また、なぐさめリーグ（13～16位決定戦）でも満足のできる試合ではなかった。

全体を振り返って思った事は、全日本チームは接戦に弱く、大切なところで踏ん張りがない、負ける事に慣れている。もっと一人一人がプレーに自信を持って、相手を飲み込んでかかるくらいの気持ちで、リラックスして試合に臨めば良いと思う。2点差なんてその時の何らかのきっかけで、いくらでも引っくり返せるケースである。その2点差のため、マイペース、ムードを維持しなければならない。今大会でも出てしまったのであるが、崩れ出したら止まらない、歯止めが効かない、という欠点を持っている。一つ狂うと、OF、DF共がガタガタになってしまう。選手個々は、なんとかしなければと考えるのだが、一向に良くならない。ペース、ムードを立て直すには、やはり点を取る事だと思う。最も確率の高い、決定的なコンビ、フォーメーションを使うようにする。何も試合の最後まで残しておく必要はない。崩れた時いかに立て直すかで、その試合が決まってしまうのだから。個々が焦ってしまうと余計つながらず、ミスを起こしてしまう。こんな時こそチームで一つの事に集中し、まずは1点を取ろう。少しでも低迷した時間が短くなるはずだ。

もう一つの課題としては、一対一である。やはりパワーの差は歴然としていて、一対一が弱い。諸外国チームは、最初1クロス、2クロスはするものの組織だったプレーは、さほどなく最終的には一対一を強引に攻めてくるのみである。利き腕を潰さない限り、どうしても後ろへ回ってしまう型となってしまう。一対一を守りきるには――少し無理があると思う。だから一対二の型で守るように、いつも言っているフォローDFの強化、あと一歩隣りのDFに寄るようにする。それと抜かれる位置が低いため、フォローに間に合わない。2人掛りで止めにいき、横づれはフットワークでカバーするようにして少しでもパスを多くさせ、不利な状態から打たせれば良い。

自分の持っている技量、力、チームとしての総合力をすべて出し切るにはどうすれば良いか？　今大会は特に力が出なかった。何故だろう。色々な要因がすべて重なり合って発揮できるのだ。たとえば、ムード、チームワークもちろん、対戦チームも関係するだろうし、細かく言うなら、パス1つ欠ける事で大きく変わる場合さえある。まず自分たちの実力を知る事、自分たちはどれだけの力を持っていて、どこまで出来る、通用するのか、を知る事が大切だと思う。自信を持ち、どんな展開でも焦る事なく平常心を保つ事だ。

宮下　和広

反省は勝負所での集中力の欠如、特にDFの時ここで一本守れば試合を有利に展開できるという場面に、自分のマークから目を離したばかりに、ずらされたりポストに入れられたりルーズボールが取れなかったりして楽に得点を許してしまうケースが多々あった。

また、精神的な面で相手より優位に立てないというか、何か相手にビビリながらプレーしてるというか、とにかく気持ちに余裕がないために、OFはボールを持ったらシュートを狙うのが鉄則なのに、パサーばかり捜してしまったり、DFは必要以上に前に引き出されたり、全然前に出れず受け身になってしまったり消極的になってしまったこと。とにかく全体的には相手に圧倒され、自分のプレーができず受け身になり点を取るのを焦り、それがイージーミスにつながって自滅した形となってしまった。とにかく、もっと自信を持って、気迫を持って、闘志を持ってぶつかっていかなければならないと感じた。

課題は、何はさて置き気迫と闘志をゲーム開始と同時に前面に出して、積極的なプレーができるよう精神的に盛り上げれるかが課題だと思うし、また、60分間通して集中力を高め攻撃的なDFがどれだけできるかが課題で、攻撃的なDFをするには常に9m以上につめるフットワーク力をつけるのと、相手の攻撃パターンやフェイントの癖を早く読み取れるようになれば、こちらから仕掛ける攻撃的なDFシフトもできるので、自分としては特にこの2つのことを頭に入れてやっていきたいと思っています。

連載

ユーゴスラビアで学んだこと

最終回

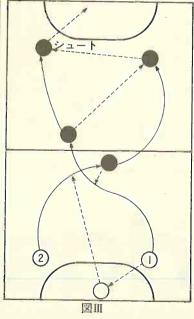
速攻について

楢原隆雄

図Ⅰは、3人速攻であるが、それぞれの走るコースは直線で曲線を描かない。

『最短距離を走る』

図Ⅱは、2人速攻でクロスをするが、①からキーパーへボールを返し速攻に出る。この場合、②はキーパーからセンターライン附近でパスを受け、①とクロスをして①へパスを行なう。②は①へしたら（図Ⅱ）のように走り①よりパスを受けシュートをする。

図Ⅲは、（図Ⅱ）の①からパスを受けた②がシュートに行くのでなく、①が②へパスしたあと、もう一度走り②からパスを受けシュートに行く。

次に、3人速攻であるが、図Ⅳは、②がキーパーへボールを返す。この間に③は図のように速攻に出る。①、②は、図Ⅱ、Ⅲの動きを12m附近で行ない、②から③へパスをつなぎ、③はパスを受けシュートに行く。

図Ⅴは、（図Ⅳ）の③がシュートに行くところを②へパスし、②は③よりパスを受けシュートをする。

図Ⅵは、更に①が（図Ⅴ）のように走り、②からパスを受けシュートに行く。

図Ⅱ～Ⅵは逆の展開を行なう。

（注）パスをする者は、視野を広くしボールをつなぐ。また、味方の走りを止めないようパスをする。

図Ⅶは、0－6DFシフトの時の位置どりであり、図Ⅷは、1－

図Ⅰ

図Ⅱ

図Ⅲ

図Ⅳ

図Ⅶ　図Ⅵ　図Ⅴ

図(2)　図(1)　図Ⅷ

2－3DFシフト時の位置どりである。
　また、それぞれのポジションが走るコースを示す図である。
　図(1)で、③から①、④、⑥の点線は、キーパーからの一次速攻が出なかった場合③へパスをつなぎ、トップを走る3者のいずれかにパスをする。それがだめな時に、②、⑤へパスをつなぎ、2、3次速攻を展開する。
　図(2)は、速攻をかけ、押し込み①、⑥のサイドにボールが入った方からずらし、最終的には逆サイドまでパスをつなぎシュートへもって行く。

（注）最前列を走る3人は、ハーフラインまでは前を見て全力でダッシュする。相手を振り切るため。
　DFが帰りきっていない場合、ボールのある所からすぐ前方へ出す。
　パスはDFを揺さぶるためにも対角線につなぐ。
　2段目は早く位置取りをする。
　クロスをしないで、自分の前を攻め、ずらして攻撃をする。

ユーゴスラビアの1・2・3ディフェンスに対するオフェンスについて

玉村健次

　1・2・3ディフェンスは、相手チームがロングヒッターなど上からの攻撃を得意とするチームの場合に有効なディフェンス隊形である。
　私たちがユーゴスラビアで指導を受けた1・2・3ディフェンスに対する攻撃方法は、1・2・3ディフェンスの弱点であるサイド、ポストが最終攻撃であるが、多く指導を受けたのは、その前の過程であるフローターの動きを重要視したものであった。
　以下、アルスナジッチ氏より指導を受けた4つの攻撃パターンを図示する。(図参照)
　以上、4つの攻撃パターンを図示したが、世界のトップレベルに位置するユーゴスラビアの1・2・3ディフェンスに対する攻撃方法などは、日本の攻撃方法と比べると、基本的には、差異はないように思われた。
　あと残る問題としては、この指導を受けた4つの攻撃パターンを、いかに日本流にアレンジし、各選手がその役割を理解、把握するかで、それによって、私たちが目標としているソツのない攻撃ができるようになるのではないかと思う。

攻撃のポイント
サイド Ⓐ は，ディフェンス①と②の間に位置どりしているポスト Ⓑ に向かっていく動きをして，②を引きつけ Ⓒ － Ⓓ ― Ⓔ － Ⓕ とずらしていく。（その時ボールを持ったプレーヤーは必ずディフェンスの間を攻撃しシュートを狙う。）

図A

攻撃のポイント
Ⓐ は，Aパターンと同様の動きをとり Ⓒ にパスをする。 Ⓒ は，Ⓓ のスルーの動きに合わせて Ⓔ にパスをする。 Ⓔ は，ポストとサイドにもパスが出来るような動きをする。（ディフェンス隊形に応じた動きが必要となる）

図B

攻撃のポイント
サイド Ⓐ は Ⓒ にパスをしてから⑤の下の方へ7m～8mの位置を走り込む。 Ⓔ は，サイド Ⓐ，ポスト Ⓑ，サイド Ⓕ にパスが出来るような動きをする。

図C

攻撃のポイント
サイド Ⓐ は，Ⓒ とクロスしたあとに Ⓓ のスルーで③にブロックをして，Ⓔ を回り込ませる。(シュートを打つフローターは，ブロックの近くを回る)

図D

コザラでの生活

市川　修

今回のユーゴ遠征で、前半約2週間のキャンプを張った「プリエドール」は、ユーゴの地を最初に踏んだザグレブ空港から約150㎞の所にある小さな町でした。ホテルは、「プリエドール」から更に20㎞、海抜1000mの山の上にある「コザラ」という所で、ここでの生活は、非常に過ごしやすく快適そのものでした。

そこで、私たちにとって思い出深い「コザラ」でのエピソードを少し紹介したいと思います。まず、1日のメニューは、8時朝食で9時半にホテルを出発し、バスで30分山道をゆられながら「プリエドール」の体育館まで行き、トレーニングを行ない、昼は再び「コザラ」に戻って昼食を取ります。夜は16時半にホテルを出発し、トレーニングを終えて夕食は21時頃といった具合です。

さて、エピソードといいますと、昼食後、ホテルの裏の草原でミーティング中に、スタッフの後ろに大きな牛が「モー」という一幕があったり、4人乗りのエレベーターと知らずに6人乗り込んで途中でストップして閉じ込められたりと笑い話は数々あるのですが、やはり皆が一番印象に残っているのは羊の丸焼を食べた時でしょう。目の前で、串にさされた羊をぐるぐる回しながら焼いたのを食べたのですが、中でも、頭だけ皿にのせられて出て来た時は全員が「ゾー」としていました。

その上、目をくりぬいて食べろというのですが、さすがに誰も食べられませんでした。

最後に、1ヶ月間のユーゴ遠征を振り返って見て感じる事は、スノイ、アルスナヂッチ両氏の指導のもとに、ユーゴハンドボールを学び、また、多くの人々との友情を深め、非常に意義のある遠征でした。

この意義のあった遠征を無駄にすることなく、目前に控えた、アジア大会、更にはオリンピックに向かって「強い全日本」を築き上げたいと思います。

各地の記録から…

東北

全国高校選抜大会青森県二次予選

（1月7日／弘前市民体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

青森商 22（11－6 11－4）10 野辺地横浜分校
野辺地 27（15－5 12－9）14 青森
青森商 24（10－3 14－7）10 青森
青森 22（10－9 12－7）16 野辺地横浜分校
青森商 18（12－3 6－7）10 野辺地

［順位］①青森商②野辺地③青森④野辺地横浜分校

〈女子〉

▼リーグ戦

青森西 14（9－7 5－4）11 野辺地
青森商 15（7－8 8－6）14 野辺地
青森西 21（6－11 15－4）15 青森商

［順位］①青森西②青森商③野辺地

関東

昌文女子高（韓国）招待 日・韓高校交歓交流試合

▼12月26日（藤村女高体育館）

昌文女 25（12－7 13－5）12 藤村女（新人）
昌文女 24（12－4 12－6）10 藤村女（3年）

▼12月28日（青山学院記念館）

昌文女 25（12－5 13－5）10 東京選抜

▼12月29日（東女体大体育館）

群女短附 11（5－3 6－3）6 聖和学院
昌文女 20（7－2 13－5）7 藤村女
佼成女 13（7－1 6－4）5 聖和学院
群女短附 18（6－8 12－5）13 藤村女
昌文女 19（10－8 9－6）14 佼成女
藤村女 21（12－8 9－4）12 聖和学院
佼成女 17（9－5 8－4）9 群女短附
昌文女 19（7－5 12－0）5 聖和学院
佼成女 20（9－3 11－2）5 藤村女
昌文女 21（10－3 11－4）7 群女短附

第2回シャトレーゼカップ

（1月30日～2月1日／山梨県県営小瀬体育館）

大邱市庁 26（13－8 13－10）18 日立栃木
シャトレーゼ 25（14－10 11－12）22 大和銀行
大邱市庁 41（21－5 20－5）20 大和銀行
大邱市庁 36（14－12 22－7）19 東女体大
日立栃木 28（11－8 17－14）22 ブラザー工業
ブラザー工業 31（17－12 14－8）20 シャトレーゼ
大邱市庁 38（22－12 16－14）26 シャトレーゼ
ジャスコ 21（8－10 13－11）21 大和銀行
ブラザー工業 24（〇－12 〇－9）21 ジャスコ
大邱市庁 38（19－5 19－5）10 ジャスコ
大和銀行 29（17－9 12－13）22 ブラザー工業
シャトレーゼ 21（10－11 11－10）21 ジャスコ
日立栃木 22（10－8 12－8）16 大和銀行
東女体大 33（16－10 17－16）26 大和銀行
ジャスコ 31（18－8 13－19）27 東女体大
大邱市庁 27（13－15 14－8）23 ブラザー工業
日立栃木 22（12－13 10－8）21 ジャスコ

東海

第5回愛知県中学生大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

豊国 13－7 蟹江
春日井中 18－8 葉栗
知多東部 24－11 城北
楠 17－16 大塚

▼2回戦

塩津 21－14 豊国
春日井中 16－8 知立南
津賀田 18－12 知多東部
楠 21－16 尾西一

▼準決勝

塩津 17－16 春日井中
津賀田 16－15 楠

▼決勝

塩津 22（11－6 11－5）11 津賀田

〈女子〉

▼1回戦

永和 24－10 牟呂
神沢 18－11 新香山
矢田 19－7 犬山南
春日井中 21－8 豊川西

▼2回戦

新郊 14－14（2PTC1）永和
洵和 12－12（4PTC3）神沢
矢田 22－5 六ッ美
尾西一 12－11 春日井中

▼準決勝

新郊 10－5 洵和
矢田 10－7 尾西一

▼決勝

矢田 15（5－8 6－3 2－1 2－1）13 新郊

第26回東海室内選手権三重県予選

（1月11、25日／四日市市体育館、本田技研健保体育館）

〈男子〉

▼1回戦

鵜ノ森ク 38－17 四日市中央ク

▼2回戦

本田技研鈴鹿 45－11 鵜ノ森ク
本田ク 41－23 尾鷲ク
三重教員 棄権 鳥羽商船
本田技研爽風会 43－6 半田ク

▼準決勝

本田技研鈴鹿 30－22 本田ク
本田技研爽風会 29－12 三重教員

▼決勝

本田技研爽風会 23（10－12 13－9）21 本田技研鈴鹿

岐阜県高校新人大会

（12月21、25日／多治見市総合体育館、岐阜県民体育館）

〈男子〉

▼1回戦

加納 19－14 市岐阜商
大垣農 30－20 郡上
県岐阜商 24－12 羽島北
中津 15－13 高山工
大垣工 19－15 大垣南
岐阜東 15－8 可児

▼2回戦

加納 22－21 斐太
県岐阜商 35－15 大垣農
大垣工 28－17 中津
岐阜西工 19－16 岐阜東

▼準決勝

県岐阜商 16－12 加納
岐阜西工 24－14 大垣工

▼3位決定戦

加納 16－12 大垣工

▼決勝

県岐阜商 22（6－10, 10－6, 2－0, 4－2）18 岐阜西工

〈女子〉
▼1回戦
高山 17－16 斐太
本巣 23－8 各務原西
大垣南 20－6 羽島
県岐阜商 11－7 富田女
▼2回戦
高山 32－7 大垣農
本巣 20－3 郡上
養老女商 26－7 大垣南
県岐阜商 28－5 中津
▼準決勝
本巣 15－13 高山
県岐阜商 12－11 養老女商
▼3位決定戦
高山 25－18 養老女商
▼決勝
県岐阜商 15（4－2, 11－6）8 本巣

三重県高校新人大会

（1月10、11、15日／鈴鹿市体育館、四日市市体育館）

〈男子〉
▼1回戦
四日市南 22－11 津
桑名 20－15 亀山
▼2回戦
四日市工 42－8 四日市南
桑名工 19－12 桑名北
高田 棄－権 四日市中央工
四日市西 20－19 津西
津東 18－14 海星
桑名西 21－14 津工
尾鷲 棄－権 日生第一
四日市 28－15 桑名
▼3回戦
四日市工 38－11 桑名工
四日市西 19－13 高田
津東 29－11 桑名西
四日市 17－6 尾鷲
▼準決勝
四日市工 31－8 四日市西
四日市 不－明 津東
▼3位決定戦
津東 20－5 四日市西
▼決勝
四日市工 26（13－8, 13－4）12 四日市

〈女子〉
▼1回戦
四日市 10－8 四日市四郷
桑名 38－9 津
上野 25－12 桑北
四日市商 21－3 亀山
津東 16－12 四日市西
四日市南 21－4 津西
尾鷲 34－8 松阪女
▼2回戦
暁 31－4 四日市
桑名 23－20 上野
四日市商 16－11 四日市南
津東 21－11 尾鷲
▼準決勝
暁 32－4 桑名
四日市商 24－6 津東
▼3位決定戦
津東 17－14 桑名
▼決勝
暁 23（9－2, 14－4）6 四日市商

第13回三重県中学生新人大会

（1月25日、2月1日／鈴鹿市体育館、ジャスコ体育館）

〈男子〉
▼1回戦
菰野 36－3 東員第一
明和 14－10 東員第二
▼2回戦
白子 22－10 笹川
亀山 21－6 四日市南
西笹川 32－6 菰野
西朝明 30－5 明和
▼準決勝
西笹川 31－5 白子
西朝明 18－10 亀山
▼決勝
西笹川 25（10－9, 15－12）21 西朝明

〈女子〉
▼1回戦
三雲 14－8 亀山市中部
大安 16－11 笹川
▼2回戦
四日市南 12－2 名張市北
西朝明 26－2 阿山
明和 10－5 東員第二
柘植 7－2 羽津
朝明 18－7 赤目
菰野 7－6 桔梗が丘
西笹川 43－0 三雲
亀山 37－1 大安
▼3回戦
西朝明 19－11 四日市南
明和 12－5 柘植
西笹川 20－8 朝明
亀山 21－2 菰野
▼準決勝
西笹川 13－4 西朝明
亀山 20－5 明和
▼決勝
西笹川 6（2－1, 4－2）3 亀山

北信越

第10回全国高校選抜大会 北信越地区予選

（2月7、8日／長野県更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）

〈男子〉
▼リーグ戦
柏崎（新潟）17（7－6, 10－8）14 北陸（福井）
氷見（富山）22（13－11, 9－10）21 小松工（石川）
北陸 23（9－8, 14－7）15 上田（長野）
氷見 27（13－8, 14－10）18 柏崎
小松工 26（16－8, 10－10）18 上田
小松工 22（10－10, 12－7）17 柏崎
氷見 18（9－4, 9－5）9 北陸
上田 16（6－9, 10－6）15 上田
小松工 24（13－8, 11－11）19 北陸
氷見 19（12－5, 7－9）14 上田
［順位］①氷見（4勝）②小松工（3勝1敗）③北陸（1勝3敗）④柏崎（1勝3敗）⑤上田（1勝3敗）※3～5位は得失点による。

〈女子〉
▼リーグ戦
小松商（石川）27（15－0, 12－7）7 新潟江南（新潟）
福井商（福井）20（9－6, 11－7）13 有磯（富山）
新潟江南 21（8－9, 13－5）14 屋代（長野）
福井商 10（6－5, 4－3）8 小松商

有磯 21（10－5、11－5）10 屋代
福井商 15（7－5、8－5）10 新潟江南
小松商 24（12－4、12－7）11 有磯
福井商 21（9－4、12－3）7 屋代
有磯 18（8－6、10－8）14 新潟江南
小松商 31（13－3、18－3）6 屋代

〔順位〕①福井商（4勝）②小松商（3勝1敗）③有磯（2勝2敗）④新潟江南（1勝3敗）⑤屋代（4敗）

近畿

奈良県秋季高校選手権

（11月15、16、22日／生駒市総合体育館、生駒市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
広陵 18－14 桜井商
斑鳩 18－9 一条
生駒 15－11 添上

▼2回戦
富雄 28－8 広陵
奈良 24－10 郡山
畝傍 26－7 奈良工
天理 18－17 斑鳩
生駒 23－7 高田東
片桐 32－11 十津川
正強 14－9 上牧
東大寺 25－16 橿原

▼3回戦
奈良 21－18 富雄
畝傍 18－13 天理
生駒 19－10 片桐

▼準決勝
東大寺 25－15 正強
奈良 20－19 畝傍
東大寺 13－10 生駒

▼決勝
東大寺 21（11－4、10－14）18 奈良

※東大寺は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦
添上 16－7 白藤
生駒 33－2 桜井商

▼2回戦
添上 32－5 一条
富雄 23－4 十津川
生駒 31－5 橿原
郡山 13－11 短大付

▼準決勝
添上 13－8 富雄
生駒 20－9 郡山

▼決勝
添上 21（12－4、9－7）11 生駒

※添上は2年ぶり7回目の優勝。

第20回滋賀県室内選手権

（1月25、2月1日／彦根東高、滋賀県立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
高島高 15－12 長浜ク
彦根東高 19－15 彦根西ク
八幡ク 27－11 滋賀大教育
長浜北高 25－8 ハンダーズ
滋賀大経済 29－8 守山ク

▼2回戦
滋賀教員 29－19 高島高
彦根東高 23－14 京セラHC
長浜北高 16－15 八幡ク
高島ク 18－16 滋賀大経済

▼準決勝
滋賀教員 29－15 彦根東高
長浜北高 16－15 八幡ク

▼決勝
滋賀教員 19（8－6、11－7）13 長浜北高

〈女子〉

▼1回戦
安曇川中 14－11 大津ク
滋賀教員 10－5 守山女OG

▼2回戦
滋賀ク 30－6 安曇川中
彦根東高 24－4 滋賀大教育
松下ク 14－4 高島高
彦根商高 25－1 滋賀教員

▼準決勝
滋賀ク 24－4 彦根東高
彦根商高 20－6 松下ク

▼決勝
滋賀ク 20（11－9、5－7、0－1、4－3、4PTC3）20 彦根商高

中国

第4回山口県学生秋季リーグ戦

（11月30日、12月7日／徳山大）

▼リーグ戦
徳山大 35－20 山口大医学部
徳山大 27－26 山口大本部
徳山大 45－19 徳山高専
徳山大 30－20 宇部高専
山口大本部 28－15 山口大医学部
山口大本部 39－11 徳山高専
山口大本部 32－16 宇部高専
宇部高専 32－20 山口大医学部
宇部高専 32－21 徳山高専
山口大医学部 38－25 徳山高専

〔順位〕①徳山大②山口大本部③宇部高専④山口大医学部⑤徳山高専

第18回岡山県高校室内選手権

（1月24、25日／岡山県体育館）

〈男子〉

▼1回戦
東岡山工 23－6 津山
備前東 17－8 吉備
岡山工 25－7 芳泉
倉敷工 20－12 大安寺
水島工 25－8 津山工
総社 16－6 玉野
朝日 13－11 児島
玉野光南 22－8 一宮

▼2回戦
東岡山工 14－10 備前東
倉敷工 16－8 岡山工
総社 12－10 水島工
玉野光南 18－17 朝日

▼準決勝
東岡山工 9－7 倉敷工
玉野光南 16－11 総社

▼3位決定戦
倉敷工 21－10 総社

▼決勝
東岡山工 18（9－4、9－5）9 玉野光南

※東岡山工は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦
備前東 14－8 大安寺
真備 17－12 津山

▼2回戦
総社 16－8 備前東
玉野 12－12（3PTC1）児島
光南 20－7 倉敷商
西大寺 13－4 真備

▼準決勝
総社 13－6 玉野
光南 18－10 西大寺
▼3位決定戦
西大寺 14－13 玉野
▼決勝
光南 13（10－3、3－3）6 総社
※光南は初優勝。

第10回全国高校選抜大会 中国地区予選

（2月14、15／鳥取県境港市民体育館、第二市民体育館）

〈男子〉
▼リーグ戦
岩国工（山口）18（10－11、8－4）15 尾道（広島）
江津（新潟）18（6－12、12－6）18 境（鳥取）
尾道 15（7－5、8－10）15 東岡山工（岡山）
岩国工 38（23－3、15－4）7 境
江津 23（9－8、14－8）16 東岡山工
尾道 22（12－4、10－5）9 江津
東岡山工 19（7－10、12－7）17 境
岩国工 33（17－7、16－4）11 江津
尾道 30（13－5、17－3）8 境
岩国工 26（12－8、14－6）14 東岡山工
〔順位〕①岩国工（4勝）②尾道（2勝1分1敗）③東岡山工（1勝1分2敗）④江津（1勝1分2敗）⑤境（1分3敗）※3、4位は得失点による。

〈女子〉
▼リーグ戦
徳山商（山口）18（9－6、9－2）8 総社（岡山）
境（鳥取）14（8－9、6－3）12 松江市女
山陽女（広島）18（8－2、10－1）3 総社
徳山商 34（20－4、14－3）7 境
山陽女 18（9－6、9－4）10 松江市女
総社 13（7－8、6－5）13 松江市女
山陽女 21（9－5、12－3）8 境
徳山商 29（15－3、14－3）6 松江市女
境 12（5－6、7－6）12 総社
徳山商 17（6－5、11－7）12 山陽女
〔順位〕①徳山商（4勝）②山陽女（3勝1敗）③境（1勝1分2敗）④総社（2分2敗）⑤松江市女（1分3敗）

四国

香川県中学校1年生大会

（1月18日／高松市立光洋中）

〈男子〉
▼1回戦
古高松 15－5 山田
玉藻 5－3 桜町
木太 12－1 光洋
香川一 19－2 紫雲
城内 11－2 宇多津
▼2回戦
綾南 10－9 古高松
木太 13－1 玉藻
香川一 19－2 香東
城内 15－6 勝賀
▼準決勝
木太 8－4 綾南
香川一 13－7 城内
▼決勝
香川一 11（4－2、7－0）2 綾南

〈女子〉
▼1回戦
山田 6－6 香川一 2PTC1
▼準決勝
山田 16－5 香東
紫雲 5－3 古高松
▼決勝
紫雲 9（6－4、3－2）6 山田

香川県中学新人大会

（1月6、7日／香川県立体育館）

〈男子〉
▼1回戦
紫雲 15－9 玉藻
香東 13－5 桜町
木太 14－10 山田
城内 16－14 古高松
香川一 20－7 綾南
▼2回戦
紫雲 11－6 勝賀
木太 14－9 香東
城内 13－9 光洋
香川一 23－2 宇多津
▼準決勝
木太 20－10 紫雲
香川一 30－4 城内
▼決勝
香川一 21（10－3、11－7）10 木太
※香川一は2年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
紫雲 7－6 古高松
香川一 15－4 木太
▼2回戦
紫雲 13－3 桜町
塩江 13－3 太田
山田 18－2 光洋
香川一 14－4 香東
▼準決勝
塩江 16－3 紫雲
香川一 10－7 山田
▼決勝
香川一 12（7－3、5－4）7 塩江
※香川一は初優勝。

全国高校選抜愛媛県予選

（1月11、12日／新居浜市民体育館）

〈男子〉
▼1回戦
松山西 21－5 松山東
新田 13－11 今治東
▼準決勝
松山西 10－9 松山北
新居浜工 22－13 新田
▼決勝
新居浜工 14（5－7、9－4）11 松山西

〈女子〉
▼1回戦
今治南 22－10 弓削
伊予農 16－12 東温
▼準決勝
今治北 12－6 今治南
松山北 13－4 伊予農
▼決勝
松山北 14（7－6、7－3）9 今治北

東洋証券ハンドボールジャパンカップ'87

※印は親善試合

	会　場	開始時刻	対　戦　（男　子）	開始時刻	対　戦　（女　子）
5／30（土）	国立代々木競技場第一体育館	18:00	ユーゴ VS 西ドイツ	15:30	全日本 VS ソ連
				17:00	韓国 VS アメリカ
5／31（日）	〃	14:00	全日本 VS ユーゴ	12:20	全日本 VS アメリカ
				15:30	ソ連 VS 韓国
6／1(月)					
6／2(火)	〃	19:30	全日本 VS 西ドイツ	16:30	ソ連 VS アメリカ
				18:00	全日本 VS 韓国
6／3(水)	横浜文化体育館	19:10	全日本 VS ユーゴ	17:40	※ソ連 VS 日本ビク
6／4(木)	山梨県営小瀬体育館			18:30	※アメリカ VS シャトレーゼ
6／5(金)	大阪市中央体育館	18:30	西ドイツ VS ユーゴ		
6／6(土)	名古屋市立体育館	18:00	全日本 VS 西ドイツ		

〈参加国〉

男　子

ユーゴスラビア（ロスオリンピック金）
西ドイツ（ロスオリンピック銀）
日本（全日本男子）

女　子

ソビエト（'86世界選手権金）
韓国（ロスオリンピック銀）
アメリカ（ロスオリンピック5位）
日本（全日本女子）

■東京大会入場料金■

入場料	1日券		2日券	
	前売券	当日券	前売券	当日券
一般	2,500円	3,000円	3,500円	4,000円
大学生	2,000円	2,500円	3,000円	3,500円
高校生	1,300円	1,800円	2,000円	2,500円
中学生	1,000円	1,300円	1,500円	2,000円

前売券販売所

4月29日より発売

ハンドボール7（新宿区）	03-350-1054
アサカスポーツ（江東区）	03-649-1859
翁屋（世田谷区）	03-420-0219
スポーツイベント（神田）	03-294-5231
フロイントスポーツ長瀬（埼玉）	0487-68-6850
日本ハンドボール協会（渋谷）	03-481-2361
東京都ハンドボール協会（品川）	03-441-2110

■主催／財日本ハンドボール協会　■協賛／東洋証券株式会社　■主管／東京都ハンドボール協会

高度なスカイプレーが変幻自在。
スカイハンド®スペシャル（THH705）
●カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
●サイズ　22.5～28.0cm
●アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）
標準小売価格 ¥13,000
asics TIGER
襲う。
ストップ＆ジャンプ性能を徹底追求したシューズ、「スカイハンド®スペシャル」。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。
株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六一号
昭和四十年六月七[illegible] 第三種郵便物認可
昭和六十二年三月二十五日 印刷
昭和六十二年四月一日 発行
東京都渋谷[illegible]一ー一ー一
電話 代表 [illegible]二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)